



第66回学術講演会 ～産業科学イノベーション～

Page

- 2 「第66回学術講演会 ～産業科学イノベーション～」開催
「NSF-MEXT US/Japan Young Scientists Symposium on Nanomanufacturing at ISIR」開催
プリントエレクトロニクス研究会第2回研究会開催
- 3 アライアンスキックオフシンポジウムおよび各研究所グループ分科会の開催報告
産研インキュベーション棟完成記念産学連携フォーラム「新産業を育む」開催
- 4 産研テクノサロン(平成22年第2回例会)
産研テクノサロン(平成22年第3回例会)
- 5 彩都サンデーサイエンス出展
第23回産研技術室報告会
国際交流パーティ
- 6 【公募記事】第2回若手セミナー
【公募記事】ハラスメント防止等に関する研修会に出席して
- 7 新任教授の研究室紹介 小口研究室(産業科学ナノテクノロジーセンター・ナノ機能予測研究分野)
【公募記事】新任教職員の紹介
・山内邦彦助教 ・川瀬啓悟助教 ・事務部
- 8 ・受賞一覧(平成22年8月～平成22年12月)
・平成22年8月1日～平成22年12月31日新任教職員一覧 ・平成22年8月1日～平成22年12月31日離任教職員一覧
・編集後記

産業科学研究所「第66回学術講演会～産業科学イノベーション～」開催

11月22日(月)に産業科学研究所・講堂において「第66回学術講演会」を開催しました。この講演会は、産業科学研究所の創立記念日の前後に開催されている記念行事で本年度で第66回目となるものです。

午前中は各研究室、附属施設、共通施設による合計41件のポスターセッションが盛況のもとで行なわれ、引き続き、午後からは、産業科学イノベーションをテーマとしたシンポジウムが開催されました。

シンポジウムは、山口明人所長の挨拶ではじまり、東北大学・田中通義名誉教授による「計測・分析の基盤技術のイノベーション」と題する特別講演が行なわれました。X線回折、電子顕微鏡、NMR、質量分析の4大分析法をはじめとする基礎物理的計測から実用的計測に至るまでの最新の技術革新の具体例が紹介され、学内の教職員、院生・学生及び学外からの研究者等の参加者約85人が熱心に聴講しました。引き続き、本研究所教授4名による一般講演が行なわれ、本シンポジウムのテーマにふさわしい最新の研究成果が紹介されました。

以上のように、本研究所が対象とする領域、「情報」、「材料」、「生体」、「ナノテク」に属する各分野での融合学際型研究の成果としてのイノベーションが講演とポスターセッションによって紹介され、盛会のうちに終了しました。

(産業科学ナノテクノロジーセンター 竹田 精治)



NSF-MEXT US/Japan Young Scientists Symposium on Nanomanufacturing at ISIR

去る12月10日に、米国NSFと文科省のナノテク交流プログラムの一環として、標記シンポジウムを産研にて開催した。これは、今年10月初旬に日本の主な大学の若手研究者らが米国の各大学を訪問したことを受けたもので、米国からはウィスコンシン大、イリノイ大、ノースウェスト大などから6名の若手ナノテク研究者が産研を訪問した。シンポジウムでは、米国側からCNTのカイラリティー制御やグラフェン、マイクロリアクターなどの興味深い報告があり、産研側から環境電研、量子ビームナノ加工、酸化物ナノ材料、有機半導体、CNTセンサなどの紹介があり、互いに交流を深めることを約束し閉会となった。

(先端実装材料研究分野 菅沼 克昭)



シンポジウム参加者の集合写真

プリントドエレクトロニクス研究会第2回研究会

去る9月28日に、工学研究科の大講義室を拝借し産研協会に組織されたプリントドエレクトロニクス研究会の第二回研究会を開催した。今回の研究会では、桐蔭横浜大宮坂教授による色素増感ソーラー技術の現在、筑波産総研の八瀬氏によるマイクロコンタクトプリントによる有機エレクトロニクスディスプレイ技術、コニカミノルタ岡田氏による電子ペーパー技術、エスピーソリューション佐野氏によるスクリーン印刷技術の4つのレビュー講演が為された。何れもホットな話題であり、参加者は187名となり活発な質疑応答が交わされた。

(先端実装材料研究分野 菅沼 克昭)



研究会の様子

アライアンスキックオフシンポジウムおよび各研究グループ分科会開催報告

“ナノとマクロをつなぐ物質・デバイス・システム創製戦略プロジェクト”キックオフシンポジウム”を2010年8月19日午後より千里ライフサイエンスセンタービルにて開催しました。本年度より、阪大産研、東北大多元研、北大電子研、東工大資源研、九大先端研の5附置研究所アライアンスが発足したことを受け、新規融合研究の一層の推進を企画したものです。5研究所から157名の参加があり、山口明人産研所長、朝日一運営委員長の挨拶に引き続き、【G1:次世代エレクトロニクス】、【G2:新エネルギー材料・デバイス】、【G3:医療材料・デバイス】、【G4:環境調和材料・デバイス】の各プロジェクトから研究概要と今後の連携計画に関して講演が行われました。その後のポスターセッション・懇親会では、“研究者の異分野交流のための集団見合い”の場として、多くの若手研究者を含め今後の共同研究のパートナーとの活発なディスカッションが行われ、成功裏にシンポジウムは終了しました。



また、G1～G4の各プロジェクトグループが各地で分科会を開催し共同研究推進に向け活動を開始しています。



アライアンスホームページ(<http://www.sanken.osaka-u.ac.jp/Projects/Nano-MacroAlliance/>)に活動報告がアップされていきますので是非ご覧ください。

最後に、この場をお借りして、シンポジウムの準備・運営を行ってくださった小林光実行委員長、情報ネットワーク室を始めとして多くの方々に感謝申し上げます。

(ナノ機能材料デバイス研究分野 田中 秀和)

産研インキュベーション棟完成記念フォーラム「新産業を育む」開催

平成22年8月30日に産研インキュベーション棟の完成を記念し、「新産業を育む」と題して、産業界を初め一般の方々も参加するフォーラムをインキュベーション棟講義室において開催しました。フォーラムでは、最初に山口明人所長から挨拶があり、インキュベーション棟を拠点とした画期的な技術革新に向けて抱負が述べられました。これに続いて西尾章治郎副学長からは、世の中を変えるイノベーションを起こすには、それを担う人材の育成が不可欠で、産学連携による高度な人材の育成に対する期待が述べられました。さらに、シャープ(株)の貫井常務執行役員からは、「エレクトロニクス製造業の直面する課題と今後に向けて」と題して講演され、今後はユーザーのニーズを捉えた商品開発が重要で、自社施設だけでなく大学を含む外部との連携、人材の交流が重要であることが示されました。このあと、「産学連携の新モデルを創造する」をテーマに、前述の講演者に加えて、大阪ガス(株)の松本毅氏、上村工業(株)の橋本滋雄氏、高槻市の高瀬幸子氏が参加するパネルディスカッションが行われました。ここでは、技術開発競争のスピードアップに向けて、大学内に連携の場を持ち、知的資源、高性能機器や研究者間のネットワークを活用したオープンイノベーションの場としての活用に期待が寄せられました。フォーラムでは、参加者に産研の最先端の研究機器、施設を見学していただき、インキュベーション棟を利用して新たな産業をどのように育成していくかについて熱心な議論が展開されました。

(産学連携室 清水 裕一)



平成22年度第2回産研テクノサロン「グリーン・サイエンス&テクノロジー」 (平成22年9月3日、大阪大学中之島センター)

環境への負荷を減らす取り組みが求められる中で「グリーン・サイエンス&テクノロジー」をテーマに開催されました。最初に、立命館大学大学院の石田修一教授より電気自動車や天然ガス自動車などの動向を背景に中小の自動車部品メーカーの今後について講演があり、引き続き日本IBM(株)の反後暁氏からはグリーンITの社内事例とあわせて次世代のデータセンターのあり方について講演いただきました。また、(株)セミコンダクタポータルの津田建二氏にはCO₂削減に寄与する半導体の概要や注目技術などを紹介していただきました。産研からは滝澤忍准教授より「グリーン・サステナブル・ケミストリー(GSC)と有機分子触媒」と題して不斉触媒分野でのGSC技術発展についての講演がありました。最後に(株)カネカ・高橋里美氏からは生分解性樹脂PHBH、医薬品製造、高性能薄膜太陽電池など、開発事例を紹介していただきました。講演会・懇親会ともに、幅広い分野からのご参加をいただき、和やかな雰囲気の中、活発な交流が行われました。

(産学連携室 清水 裕一)



平成22年度第3回産研テクノサロン「ソーラーイノベーションの現状と展望」 (平成22年11月12日、大阪大学産業科学研究所管理棟1階 講堂)

平成22年度第3回産研テクノサロンは「ソーラーイノベーションの現状と展望」をテーマに改修後の産研講堂で初の開催となりました。三菱電機(株)の石原隆氏には「太陽電池開発の現状と展望」と題して結晶シリコン太陽電池の高効率化技術と低コスト化技術について、(株)アルバックの浅利伸氏からは、薄膜Si太陽電池の現状と今後の課題、製造設備であるターンキーシステムの概要とそこで得られる特性について講演していただきました。産研からは、小林光教授より太陽電池の高効率化に寄与する最新の表面処理技術などの紹介があり、菅沼克昭教授からは最先端の接続・配線実装材料開発の状況について説明がありました。

講演後は、小林研究室、菅沼研究室の見学会に多数ご参加いただき、普段は見ることのない研究現場で開発途中の材料などにも触れていただきました。交流会は、改装された楠本会館ラウンジで開催され、紅葉を眺めながらリラックスした雰囲気の中で意見交換をしていただきました。

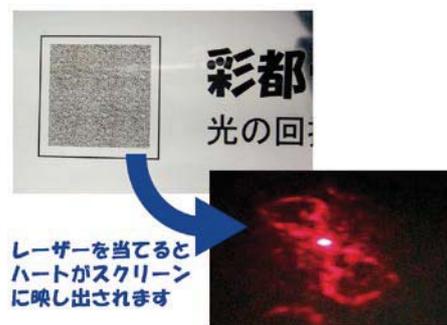
(産学連携室 神田 幸代)



彩都サンデーサイエンスに出展しました

今年で四回目を迎えた彩都サンデーサイエンス(11/28)に、やっぱり今年も参加しました。技術室は一回目から参加しており、筆者も皆勤しています。これまでの出展で筆者が感じたことは、「もの」を作って、持って帰れるようなテーマが喜ばれるということです。せっかく技術室が出展するので、材料から作り出すような企画がかっこいいですが、大量に準備する困難から、これまでは既製品を利用した内容になっていました。そこで今年は、一から作れるようなものにと考え、家庭用のインクジェットプリンターでホログラムを作ることを試みました。ところが実際にやってみると、インクジェットのにじみから再生像は乱れたり、OHPシート表面の凹凸が望まない回折を起こしたりと、課題がいっぱいでした。最終的には解像度を落とし、ラミネートすることで本番に耐えうる出来になりました。

当日は、二台設置したプリンターのうち一台の出来栄があまりよくなくて、ホログラムが再生できない子がいて申し訳ない点もありましたが、午後になってからは安定して提供することができました。方法は確立したので、これからもイベントで使えるものにはなっと思えます。



(技術室 榎原 昇一)

第23回産研技術室報告会

平成22年12月6日に第23回産研技術室報告会を開催致しました。改修工事を終え新装なった管理棟の講堂にて行いました。本報告会では、はじめに山口明人所長、石橋武技術室長から挨拶を頂き、続いて技術室運営委員長の鷲尾隆教授により「データマイニング技術を使った臨床データからの新薬発見」と題する特別講演が行われました。また、招待講演は工学研究科技術部の岩崎信三技術専門員より「機械加工における知恵」と題して、ユーザーズレポートは励起物性科学研究分野の成瀬延康助教より「フェムト秒時間分解透過型電子回折装置の開発と産研技術室」と題して講演いただきました。技術室からは4題の報告(奥村由香技術職員「分析装置の総合利用管理システムの紹介」、小川紀之ガラス工作係長「一簡単!・スピーディー!・低コスト!ー 硝酸酸化装置の製作」、松川博昭工作班長「高精度化に一翼を担う機器について」、田中高紀計測班長「一最新装置紹介ー ナノX線CT装置について」)が行われました。今回の報告会は、いずれも活発な質疑応答があり有意義な開催となりました。本報告会開催に際し参加、協力下さいました皆様に感謝申し上げます。今後とも技術室へのご理解とご指導、ご鞭撻をよろしく申し上げます。

(技術室 大西 政義)



産研 国際交流パーティー開催

本研究所において日々研究等を行っている外国人研究者、留学生の方々及びそのご家族と、教授をはじめとする教職員やチューターとの親睦を深めることを目的とした本研究所恒例の国際交流パーティーが、12月16日(木)午後5時30分から、工学部GSEコモニースト15階のラシェーナにて開催されました。

副所長兼国際交流推進委員会委員長の菅沼教授の開会の挨拶の後、同教授の司会により山口所長の挨拶と乾杯の発声でパーティーは始まり、中国、韓国、インド、ベトナム、バングラデシュ、米国、ドイツなど計13ヶ国もの外国人研究者・留学生や小さいお子さんを含むご家族と、教職員などあわせて約80名が、教育・研究や日常生活等の話題について終始歓談したのち、各研究室ごとに自己紹介し、最後に日本伝統の一本締めでパーティーを締めくくりました。

(総務課総務係)



【公募記事】このページは公募に寄せられた記事を掲載しています

第2回 若手セミナー

産業科学ナノテクノロジーセンター所属研究室の若手教員間の交流を通じたセンターの研究活性化と共同研究の推進を目的として、昨年度から「若手セミナー」を開催しています。本年度の第2回若手セミナーは8月6、7日に大阪市内のセミナーハウスクロスウエーブ梅田で開催しました。本セミナーでは各研究室に関連する分野で精力的に御活躍されている外部講師を推薦していただいております。本年度は北海道大学大学院情報科学研究科の葛西先生、東北大学国際高等融合領域研究所の湊先生、東京大学大学院工学研究科の多田先生、理化学研究所の金先生、産業技術総合研究所の中村先生、京都大学大学院工学研究科の寺尾先生、大阪大学大学院基礎工学研究科の山田先生、吉川先生に御講演をいただきました。ナノテクノロジーセンターからは神吉先生、吉田先生に御講演をいただきました。20名余りの参加人数とインフォーマルな講義形式が幸いしたのか、講演に対する活発な質疑応答、意見交換、ディスカッションが夜遅くまで行われ、目的に合致した有意義な開催となりました。

(ソフトナノマテリアル研究分野 家 裕隆)



ハラスメント防止等に関する研修会に出席して

平成22年12月8日、学内の人権問題委員会とハラスメント相談室の共催による「ハラスメント防止等に関する研修会」が開催された。偶然にも、この研修会へ出席する機会を得た。会場は医学部保健学科第一講義室(階段教室)で、場内は聴講者でほぼ満員の状態であった。これは人権問題とハラスメントの重要性と関心の高さを物語るものであろう。産研からの出席者は見渡したところ、筆者と知人を合わせ、悲しいかな僅か3名であった。

講演は2件あり、初めにパワーハラスメント関係とDVD視聴、そしてセクシャルハラスメント関係へと続いた。両方の講演について共通するところは加害者と被害者、強者と弱者の対峙があり、加害者にはハラスメントの認識が欠如しているということであった。或る例では、某大学の院生が被害を受けたことにより学生相談室へ駆け込み、相談員が当該教員に次第を説明すると、「全く(ハラスメントの)認識がなかった」。そして「そのような状況とは気付かなかった」との返答があり、ハラスメント防止に関する啓蒙の必要性を痛感したそうである。尤も、加害者が認識してハラスメントに及べば、はっきりと犯罪が成立することになって話は早い、それ以外では白黒をはっきり付けるのは極めて難しい。

また、講師は「このような研修会を開催しても(ハラスメント問題が良く分かっていて)出席しなくてもよいような人は出席するが、出席するべき人が出席しない」と嘆き(?)に近い心境を述べられた。この発言に会場は一斉に「同じ思いだ」との空気が流れるのを感じ取ったのは筆者だけではなかったように思う。続けて、(今は強制力がないが、)研修は少なくとも然るべき立場の人には義務化するべきか、また受講しなければペナルティを付けるぐらいの措置が必要かも知れないとも述べられた。実際、大学によってはそのようなところもあるらしい。

このように見ると、相談員の任務が如何に重要かと言うことになる。確か、所内には「なんでも相談室」があって、相談員の先生が定められていたと記憶するが、上記のように研修を受けられたかどうか思いが巡る。残念ながら、かつて所内においてもパワハラがあったことを耳にしている。やはり、相談員の先生には「ハラスメント防止」に力点を置いてご尽力されることを願わずには居られない。このことは本研修会のテーマでもあり、講師も繰り返し力説されていたことである。

幸い、筆者にはこれまで多くの先生方の下で順調に有意義に楽しく、ハラスメントのハの字もなく過ぎて来た。一般的に見れば、これが平均か希か、また幸運かは知らない。然しながら、現実に人権やハラスメントに関する問題が存在することを思うと、少なくとも周囲に関心を持つことは必要であり、研修会等の講演へ出席することも一人個人としては微々たる行動なれども、集合されれば必ずや有効に成り得よう。そのような意味で、今回は第一歩となった。

(ナノ加工室 谷畑 公昭)

【公募記事】このページは公募に寄せられた記事を掲載しています

ナノ加工室からのお知らせ

株式会社実践マシンウェアより三次元CAD (ZW3D, <http://www.zissen-mw.jp/index.html>) が寄贈されました。
オンラインライセンスですので、どなたのパソコンでも、同時に3台まで使用できます。使われない方はナノ加工室(内線8433)まで連絡下さい。

(ナノ加工室 榎原 昇一)

新任教授の研究室紹介

小口研究室(産業科学ナノテクノロジーセンター・ナノ機能予測研究分野)

Q.研究内容は?

A.当研究室はナノ機能予測、つまり物質・材料の理論的な研究をしています。ですので、実験装置としてあるのはコンピュータだけです。物質や材料が機能を発現するカラクリを研究して、どうすれば高い性能をあげられるかという研究を進めています。物質・材料としては、半導体、磁性体、超伝導体と、たいへん広範囲です。理論がコアにあり、機能のカラクリを調べ、よりよい機能をもつ物質・材料の設計を目指しています。

Q.メンバー構成は?

A.小口教授、白井准教授、山内助教、小寺 特任研究員、黄 特任研究員、秘書1名、大学院生3名です。

Q.大学院生の所属は?

A.基礎工学研究科の物性領域と理学研究科の物理専攻から来ることができます。

Q.研究室の様子は?

A.やっとスタッフが揃ってきたところなのでこれからです。今年度、3台コンピュータが入ることになっています。

Q.研究室の特長は?

A.理論の研究室ですが、実験グループと議論を重ねることで新しい物質・材料を開発していくことに貢献したいと考えています。学内外を問わず、ハブとしての研究室になればと思います。

(取材:広報委員会産研ニュースレター担当)



新任教職員の紹介

※平成22年8月～12月に着任された新任教職員全員の所属、名前は8ページに掲載しております。



ナノ機能予測研究分野 助教 山内 邦彦

平成22年11月16日付でナノ機能予測研究分野(小口研)に助教として着任しました。マルチフェロイック物質の理論研究を中心に、d電子系・f電子系の電子状態計算に取り組みます。今後ともよろしくお願ひします。



量子ビーム発生科学研究分野 助教 川瀬 啓悟

平成22年8月1日付で量子ビーム発生科学研究分野(磯山研)に助教として着任致しました。これまで、主に電子加速器とレーザーとを用いた光源開発を研究して参りました。

今後は、レーザー開発なども交えた加速器科学の研究・加速器の高度化等を進めて行きたいと考えております。どうぞよろしくお願ひ致します。



事務部

左端より
契約係 主任 小林 貴行
研究協力係員 神田 幸代
総務係員 企画室 東尾 朋静

受賞一覧(平成22年8月1日～平成22年12月31日)

8月 4日	真嶋 哲朗	日本化学会 BCSJ賞(欧文誌83巻10号)
	藤塚 守	日本化学会 BCSJ賞(欧文誌83巻10号)
	藤乗 幸子	日本化学会 BCSJ賞(欧文誌83巻10号)
8月 5日	川合 知二	Top Cited Article2005-2010Award(Physica E:Low-Dimensional Systems and Nanostructures)
	谷口 正輝	Top Cited Article2005-2010Award(Physica E:Low-Dimensional Systems and Nanostructures)
8月 6日	高橋 昌男	第8回DV-Xa研究会学術賞
8月27日	溝口 理一郎	教育システム情報学会論文賞
9月 9日	菅沼 克昭	第19回マイクロエレクトロニクスシンポジウムベストペーパー賞
	金 権鉄	第19回マイクロエレクトロニクスシンポジウムベストペーパー賞
9月14日	植村 隆文	第32回応用物理学会論文賞
9月22日	柳田 剛	"17th International Workshop on Oxide Electronics Best Poster Award"
11月10日	加藤 修雄	Asian Core Program Lectureship Award

平成22年8月1日～平成22年12月31日 新任教職員一覧

8月 1日	教授	採用	小口 多美夫(広島大学大学院先端物質科学研究科 教授から)
	助教	〃	川瀬 啓悟(日本原子力研究開発機構 博士研究員から)
	主任(研究連携課契約係)	配置換	小林 貴行(工学研究科研究協力室産学連携係主任から)
	特任研究員(先端実装材料)	採用	徳野 剛大
	特任研究員(ナノ機能予測)	〃	小寺 満
	特任研究員(ナノ機能予測)	〃	黄 紅斌(HUANG Hongbin)
8月16日	所長特任研究室	〃	孟 鋼(MENG Gang)
9月 1日	助教(生体触媒科学)	復職	立松 健司
	特任助教(常勤)(複合知能メディア)	採用	王 君秋(WANG Junqiu)(複合知能メディア 特任研究員から)
	特任助教(常勤)(複合知能メディア)	〃	華 春生(HUA Chunsheng)(複合知能メディア 特任研究員から)
	特任助教(常勤)(生体触媒科学)	〃	松崎 高志(生体触媒科学 助教から)
10月 1日	事務職員(総務課総務係)	〃	東尾 朋静
	事務職員(研究連携課研究協力係)	〃	神田 幸代
	特任教授(常勤)(第3プロジェクト(ビーム応用フロンティア))	〃	田川 精一(第3プロジェクト(ビーム応用フロンティア)特任教授から)
	特任助教(常勤)(知識システム)	〃	山縣 友紀
	特任研究員(常勤)(知能アーキテクチャ)	〃	LEGASPI Roberto Sebastian
	特任研究員(客員教授)(ナノシステム設計)	〃	秋永 広幸
	技術補佐員(量子ビーム科学研究施設)	〃	青柳 嘉一
	外国人研究員(客員准教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター)	招へい	ABDEL-MOLA, Mohamed Almkhtar M
10月16日	特任研究員(励起分子化学)	採用	BIAN Zhenfeng
11月 1日	特任准教授(常勤)(先進電子デバイス)	〃	岡本 敏宏
	特任研究員(励起物性科学)	〃	GIRET Yvelin Olivier Julien
	技術補佐員(複合知能メディア)	〃	大河内 良美
	技術補佐員(複合知能メディア)	〃	井口 美香
11月16日	助教(ナノ機能予測)	〃	山内 邦彦(国立研究機構国立物質物理研究所(イタリア) 任期付助教から)
12月 1日	特任研究員(常勤)(所長特任研究室)	〃	HE Yuhui
12月20日	外国人研究員(客員教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター)	招へい	金 成植(KIM Sung Sik)

平成22年8月1日～平成22年12月31日 離任教職員一覧

8月 1日	主任(研究連携課契約係)	昇任	山口 智(研究推進部大型教育研究プロジェクト支援事務室専門職員へ)
8月20日	外国人研究員(客員教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター)	任期満了	金 成植(KIM Sung Sik)
8月30日	外国人研究員(客員准教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター)	〃	BORSCH Michael Gustav
8月31日	特任研究員(複合知能メディア)	退職	王 君秋(WANG Junqiu)
	特任研究員(複合知能メディア)	〃	華 春生(HUA Chunsheng)
	特任研究員(知識システム)	〃	住田 光平
	事務補佐員(ソフトナノマテリアル)	〃	謝 明君(HSIEH Ming-Chun)
9月 1日	助教(生体触媒科学)	復職	立松 健司
9月30日	特任教授(第3プロジェクト(ビーム応用フロンティア))	退職	田川 精一(第3プロジェクト(ビーム応用フロンティア)特任教授(常勤)へ)
	特任研究員(半導体材料・プロセス)	〃	前田 譲章
	特任研究員(機能物質化学)	〃	平田 修一
	特任研究員(機能物質化学)	〃	JOKAR Mahboubeh
	事務補佐員(ナノ機能材料デバイス)	〃	池田 恵
	事務補佐員(研究連携課財務係)	〃	大杉 昌子
	事務補佐員(研究連携課契約係)	〃	久保 美里
	招へい准教授(ナノシステム設計)	任期満了	金澤 靖
10月15日	事務補佐員(医薬品化学)	退職	丹野 美鈴
10月29日	外国人研究員(客員教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター)	任期満了	PINCİK Emil
10月31日	特任助教(常勤)(知識システム)	退職	林 雄一(名古屋大学情報基盤センター 准教授へ)
	特任研究員(励起物性科学)	〃	TEOBALDI Gilberto
	特任研究員(生体分子エナジェティクス)	〃	林 久美子
12月31日	特任研究員(先端実装材料)	〃	菰田 夏樹
	特任研究員(客員教授)	〃	秋永 広幸
	招へい准教授(ナノシステム設計)	任期満了	酒井 政道

編集後記

最後までお読みいただきありがとうございました。干支のウサギにあやかって跳ね上がって
いく研究や活動状況を積極的に採り上げて参りますので、今年も「産研ニュースレター」を
どうぞよろしくお願いたします。最後に年末のご多忙の中、ご執筆頂きました皆様へ厚く
御礼申し上げます。

(家 裕隆、堂野主税)

産研ニュースレター

2011.1 第42号

発行：大阪大学 産業科学研究所 編集：産研広報委員会

〒567-0047 大阪府茨木市美穂ヶ丘8-1

TEL: 06-6879-8387 FAX: 06-6879-8509

URL: http://www.sanken.osaka-u.ac.jp/

E-mail: kouhou@sanken.osaka-u.ac.jp